

議会改革の取り組みを視察

議会運営委員会
1月23・24日

(株)フジコーポレーション視察

3月9日

神奈川県三浦半島の西北部に位置する人口3万3千650人の葉山町議会の定例会の議会日程や議会改革の取り組みについて視察した。

議員定数は、平成23年5月から3名削減の14名で、2つの常任委員会と特別委員会には、予算・決算特別委員会とごみ問題特別委員会・議会広報特別委員会があった。

議会日程は、他の常任委員会の傍聴ができるように日程をずらして行っており、日数も定例会毎に違うとのことであった。一般質問は、一括質問方式で、再質問は一問一答方式で行っ



ている。

議会のインターネット生中継及び録画中継の配信を平成21年から導入し、本会議中継アクセス件数は、21年で5千822件、22年は3千300件、録画中継は、21年2千938件、22年は1千968件と、市民の関心の高さがうかがえた。

主な議会改革として、21年6月に議会基本条例を可決し、10月1日より施行。委員会を制限公開から原則公開とし、全員協議会も非公開から制限公開とした。2名からの会派制をと



2日目は、国の機関で東京都江東区にある、東京湾臨海部基幹的広域防災拠点の東京臨海広域防災公園を視察した。内閣府や国土交通省の防災担当官から基幹的防災拠点の整備状況や首都直下地震応急対策の活動について説明を受けた。

東京湾北部地震M7.3が想定され、広域的な災害時に

緊急災害対策本部が設置されることと、約960平方メートルの部屋に186座席があり、他に打合せスペース84席と300インチのモニターが壁一面にあり、リアルタイムで各地域の被害状況などの情報が集中するようになっていて、設備・装備ともにすばらしかった。

東日本大震災以後、各地で大きな地震が多発しているなか、広域的防災拠点のこの施設が必要とならないことを祈るばかりである。

議会運営委員長

市村千恵子

平成24年3月議会開会中に、佐久市にある、一般廃棄物最終処分場及び産業廃棄物管理型最終処分場を運営する(株)フジコーポレーションを議会と町側(理事者、全課長)とで視察を行なった。

視察目的は、御代田町で排出される可燃ゴミがイ1・ステージで中間処理され、その焼却残渣や廃乾電池・廃蛍光灯などの危険物の全量処理が行なわれているが、安全・安心で適切な処理を行われているだけでなく、処分場の地域の住民の皆さんに不安を与えることなく後世まで安全に安定的に処理されているかを確



認するため行った。

受け入れの放射線量基準は、国の基準が8千ベクレル/kg以下となっているが、自社基準を設け平成23年7月1日以降の新規契約においては500ベクレル/kg以下としているそうである。

処分方法は、放射性物質や重金属が空間中飛散や地下浸透しないよう、特許取得された方法により固形化されている。

空間放射線量や施設排水の測定を定期的に行いホームページや報告書にまとめ近隣地区や市・町関係者に配布されており、私たち議員にも定期的に報告がなされている。

視察当日にも空間放射線量の測定が行なわれてお

取ることができた。

東京電力福島原発の事故を原因として発生した放射性物質による汚染により、遠く離れたこの地でも影響を受けることとなったが、この問題についてもフジ式盛土材圧密成型工法により問題なく処理されているのが、空間放射線量や原水等の検査結果からも理解できた。

また、放射能や重金属が含まれる廃棄物処理に関しては、色々な意見があり、廃棄物搬入を心配される方もおり、これまで以上に安全・安心な施設であり続けるような施設運営と情報公開を引き続きしていただきたいと考える。

野元 三夫